

青森県立弘前南高等学校

住 所 弘前市大開四丁目の一
生徒数 男子五二一名 女子五九三名
部員数 男子十七名 女子十二名
顧問 小枝 正治・下山かおる

学校並びに部紹介

昭和三十八年四月、第一回生入学する。

弘前の南西に位置し、雪がとけ、春がやってくると一面りんごの花が咲き誇り、その中で全校マラソン大会がおこなわれます。まさに春爛漫というところです。秋には真赤に彩られ、おもしろい鈴なりになります。自然に満ち溢れた環境の中でマラソン大会等が南高校の伝統を築いて来ました。

津軽の生んだ賢人、陸羯南先生が「名山出名士……」と詠まれた秀峰、岩木の山が西にやさしくそびえ、南高校からの名士の誕生を見守っています。毎日岩木の山を仰ぎ、登校してくる生徒達は山の気持ちなどどこ吹く風と受け流し、自然のまま、気の向くまま、伸び伸びと過ごしています。当然空手道の気質ものんびりと優しく、相手に勝ちを譲るサークルという感じです。

我が空手道部を端的に表している生徒のコメントを紹介します。「私達は瓦割りの集団ではありません。でもイカしたスポーツという訳じゃないのです。私達はどちらかといったら『我慢の集団』です。空手を一口でいえばすごく紳士の殴り合いで、毎日練習の時は必ず誰かが『ごめん、痛かった?』とかいってて、相手の

子はすごく痛いっと思ってても絶対、笑顔で『ううん、全々平気』と答えるの、とても我慢強いでしょう。だって目指すは強くて、優しい日本の父や母ですもの。」

このように我が空手道部の目指すところは、互に助け合い、励まし合って、切磋琢磨し、強くて優しい騎士道を目指して楽しく、日夜努力を重ねている集まりです。

最近女子部員（マネージャーを含め）も増え、その活躍は男子をしのぐものがあります。強くて、優しい母を目指し、黄色の気合いと共に優雅に舞うその姿は先輩諸氏には想像すら出来ないことでしょう。

我々の練習場は静心堂と名付けられている格技場で柔道、剣道と一緒に使用しています。名前だけは立派ですが実際はボロ校舎の解材を集めて作った板張りで、床は凸凹、天井は風通し満点、足にはよく豆ができるし、冬は氷の上で練習している感じです。また剣道の竹刀の音の中ではちょっと大きな声では全然聞こえないので、ただ黙々と練習しています。剣道部の休みの日は心まで静かで、晴々する思いになります。でも相も変わらず気合いは小さく静かにやっています。

練習は月曜日から土曜日まで一日二時間の予定ですが、八割方補習を受けていますので実質は一時間位の生徒が多いことになりました。空手よりは勉強を大切に望んでいる生徒が多いので、練習は能率よくやろうと考えています。空手バカといわれる生徒は、少ないので、生徒の進路達成のためにも勉強はきちんとやらせるようにしています。南高校は文武両道が教育目標です。その点か

らすると部活の時間が少ない気がします。

空手道を一口にいえばやはり暗いスポーツという印象を与える
と思います。紳士の殴り合い、といわれる点からすると明るい気
もしますが、素足で黙々と練習する様子は現代っ子には嫌われる
要素であると思います。もう少し明るくできるスポーツに工夫し
てはとも考えます。それだけに実際、けなげに頑張っている生徒
の心意気はほめられると思います。



主な記録

○総体

昭和四十八年

男子優勝

昭和六十三年

女子優勝

平成元年

女子優勝

個人組手優勝

竹内祐己子

○東北大会

昭和六十三年

女子三位

平成元年度選抜大会

女子優勝

個人組手第二位 須藤美佳

平成二年度選抜大会 男子第二位

○その他県大会

平成元年度新人戦 女子優勝 個人組手 須藤美佳 優勝

平成二年度 " 男子優勝 個人組手 福岡晃史 優勝

平成三年度春季大会 女子優勝

空手道部沿革

創立 昭和四十一年四月、愛好会結成 四十二年 部昇格

初代部長 福田 晃 四十二年度卒 三回生

二代目" 三橋 清 四十三年度卒 四回生

現在野辺高校空手道部コーチとして手腕を発揮する。彼の語るところによると、四十一、二年は自由組手、四十三年には自由一本とのことでした。

六代目" 中野、この年は高体連加盟後二年目にあたる。総体で

男子優勝

十四代目 中畑 要 高校、大学と活躍する。特に埼玉県川口北

高校に教諭として採用されて一層空手の強さに引かれ、格闘技日本一を目指す。昭和六十二年には見事日本一に輝いた変わった根性の持ち主です。また彼が平成三年には海外青年協力隊員として経験した事を「トングの金八先生」という題で朝日新聞に連載された内容は自らの体全体で教育されている様子があらわれすばらしいものでした。

すばらしい先輩方の活躍の全てを掲載できないのが残念です。